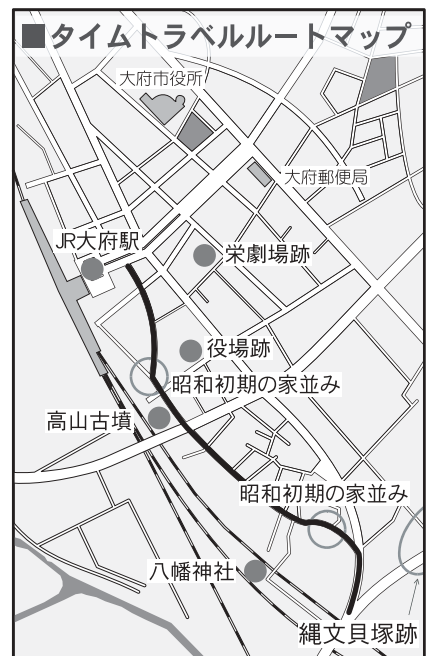




0・5キロのタイムトラベル

大府最古の道を探る

大塚裕昌（共西町）



大府駅前周辺

大府駅を始点とする武豊線は東海道線を建設するために敷設されたもので、明治19年にさかのぼる。名古屋駅建設のためにガンジ山（桃山町地内）が削られたとか、戦時中に作られた大府飛行場（長草町山口地内）への引き込み線があったとか、駅前に「栄劇場」という芝居小屋があったとか、駅にまつわる昔話も楽しい。近くの延命寺（大東町地内）は鎌倉時代にはじまり、江戸時代には広い境内と多くの僧坊を誇る名刹だったとも聞いている。そんな大府駅の東口周辺。この辺りから南へ向かう道には、市役所や郵便局が面する広く新しい道、角に煙草屋さんがある昭和初期の面影を残す商店街の道、そして緩やかに湾曲した旧街道の道の3本があり、それぞれが時代

の移り変わりを物語っている。

昭和初期の家並み

一番古そうな旧街道の道は、平成になって建てられたホテルの脇を、奥深く入っていく。駐車場や新しい建物を通り過ぎた辺りで、今では公民館となっている役場跡をのぞくことができる。やがて昭和初期を思わせる懐かしい家並みが姿を現す。直角に交わらない交差点もこの道の古さを物語っているようだ。この辺りの旅館は、江戸時代に始まった知多四国八十八カ所巡礼をする人のための宿が起源のようだ。

高山古墳と三樹魂碑

国道の跨線橋を潜る辺りに、コンクリートと土盛られた高山古墳がある。市誌や町史によると、十分な調査が行われていないために、ちょっとし

た謎の存在なのだが、並べられた大きな石は内部の石室に使われていたものと考えられている。今から1500年前の古墳時代がこんな所に隠れていたとは・・・。傍らに三樹魂の碑と書かれた大きな石がある。三樹というのは、3本の木のことで、江戸時代の文献に登場したり、俳句に読まれていたりする。当時から交通の要衝であったこの辺りは、多くの旅人が通い、三河から尾張に入る一つの目印とされていたようだ。同じ木かどつかは分らないが、伊勢湾台風の時に枯れたという話を聞いた。

八幡神社と海岸線

街道の道は、東海道線に近づいたり離れたりにしているうちに、線路を少し下に見るようになる。西の方に寄り道をすると、武豊線と東海道線



▲栄劇場



▲昭和初期を思わせる家並み
マンションや駐車場の間に昭和の面影を感じることができる。



▲高山古墳
こんな所に……。十分な調査がされなかったことが惜まれる。



▲八幡神社
鉄道が敷かれる以前は、ずっと広い敷地であったと記述されている。



▲道の終点(朝日町2交差点付近)
この道の先は海で、この辺りに貝塚があったと考えられる。

▶元禄14年(1701年)頃の海岸線
現在に比べて随分と海岸線が入り込んでいる。大府は海沿いの町であったことがよくわかる。
(出典：大府町史)



街道の道に戻って、昭和初期から現代までのバリエーションに富んだ住宅の間を先に進むと、商店街の通

縄文時代の貝塚跡

市誌などによると、江戸時代には伊勢参りの船が延命寺辺りの船着き場から出ていたとか、年貢を運ぶのに船を使っていたといった記述がある。江戸時代のある時期までは、ここから先は海で、海の安全を祈願する役割もあったのではないだろうか。

に挟まれた木々の中に八幡社がある。御祭神は品田和気命とあり、応神天皇のことらしい。少したざずんできると小高い土手を武豊線の列車が、もう一方の崖下を東海道線の列車が走っていく。今くぐった鳥居の方を振り返ると、かつてここから先が海だったかのように、ずっと低い所で枯れ草がなびいていた。

順調に発展を遂げてきた大府は、

こうして平成時代から縄文時代までの約一万年の旅を、昭和・明治・江戸・中世・古代の面影をしのびながら、わずか0・5キロで果たしたことになる。大府に歴史はないと多くの人は言いかもしれない。でもこんな風に歩いてみれば、たった0・5キロの中にも、数多くの歴史が隠されていることに気づかされる。

タイムトラベルの価値

りと一つになる。この先は小さな崖になっていて、今は大きな工場が建っているが、昔はやはり海であったようだ。市誌には、この辺りの崖や駐車場で、貝塚(棧敷貝塚)が確認されているとある。縄文時代に海からこの地に降り立って、大府の最初の住人となった人たちの生活の跡が、この道の終着点でもある。

(参考文献：大府町史、大府市誌)

最後に、貴重な写真と共に、大府の歴史についてお話をしてくださった早川清夫さんにお礼を申し上げます。

今、皆さんの住んでいる場所について、もう少し知ってみたいと思いませんか。

今後まだまだ発展し、変貌していくに違いない。だからこそ、自分たちの住んでいる場所がどういう場所だったのか、少し昔をしのんでみることで、価値あることのように思えてくる。これから大府に住む人たちが訪れる人たちに、この場所がどういう歴史をもっているのか教えてあげられたら、なんとなく共有感が味わえるかもしれない。